



大門上池調節池広場から望む埼玉スタジアム2002公園(2021年3月)

美園スタジアムタウンビジョン2050

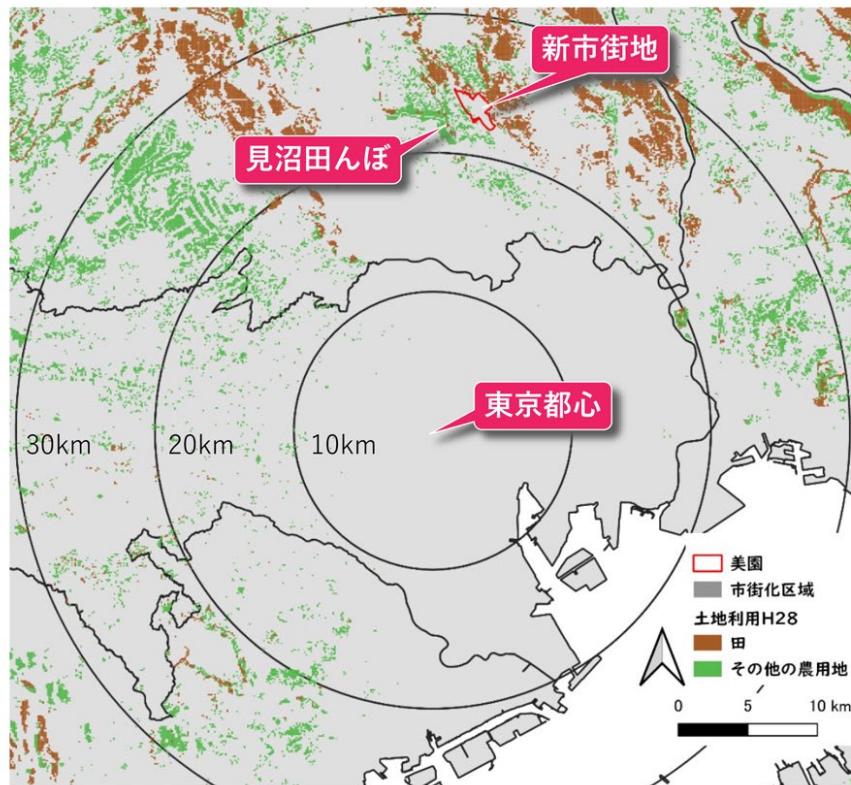
3章_美園の魅力

美園の魅力：自然

美園の魅力：まち

美園の魅力：人

美園の魅力：自然



「市街地」と「田園」のフロンティア

- 新市街地周辺では、見沼田んぼを始め東京都心から30km圏内では非常に貴重なまとまった田園が広がる。
- 古くから苗木・植木が盛んで、今も武藏野の原風景が残る。
- 江戸時代には日光御成街道の宿場町「大門宿」が栄えた。

ヒューマンスケールの身近な水辺

- 住宅地を流れる綾瀬川や、芝川・見沼代用水といった自然の水辺が身近に。
- 水辺を生かしたまちづくりの可能性を有する。

美園の魅力：まち



世界の「埼スタ」がある

- ▶ 「埼玉スタジアム2002」は、2002FIFAワールドカップにつづき、2021年には東京2020大会の会場としても予定。浦和レッズのホームスタジアムとして、毎年数々のドラマが生まれている。
- ▶ 公園機能として広場等も有し、隣接する調節池と一緒に広大なオープンスペースを形成。

広い空が見える「ゆとりある」郊外住宅地

- ▶ 広幅員の道路や電線類地中化、建築に対する規制・誘導などにより、空の広い開放感ある街並みが自慢。東京都心のような忙しさがなく、落ち着いた時が流れる。
- ▶ 環境に配慮し、先進技術を取り入れた住宅モデル街区が複数立地。
- ▶ 一方、「埼スタ」でのサッカー開催時には、情熱的な顔も見せる。

美園の魅力：人



浦和レッズをはじめとしたスポーツのソフトインフラ

- ▶ 埼スタに本社を構える「浦和レッズ」をはじめとし、プロ卓球チーム「T.T彩たま」(卓球ステーション開設)や、総合型地域スポーツクラブ「浦和美園SCC」(通称うらら)といったスポーツのソフトインフラが存在している。
- ▶ また、水泳日本代表選手の所属するスイミングスクール「スウィン浦和美園」が立地している。

美園発の多才な人材／多彩な活動

- ▶ 農業や苗木・植木産業を守り・育て・伝える人、地域資源を生かし新たな事業に取り組む人など、様々な人材が美園で奮闘中。
- ▶ 今や各地に普及した「Hello Cycling」(シェアサイクル)は、美園での実証事業をステップに社会実装が進展。
- ▶ 古くからの伝統をつなぐ活動のほか、2015年より開催される「浦和美園まつり&花火大会」など新たな地域コミュニティを育む活動も胎動し、多彩な活動が地域で展開。

美園の魅力（まとめ）



「市街地」と「田園」のフロンティア
ヒューマンスケールの身近な水辺

世界の「埼スタ」がある
広い空が見える「ゆとりある」郊外住宅地



4章_将来像

まちづくり進捗報告・意見交換回「美園トークスタジアム'18-'19season」(2019年1月)

2050年を見据えた将来像（魅力を最大限活用）

地域の魅力を最大限活用した将来像について、下記の通り設定する。（各将来像は次頁以降参照）



将来像① 埼スタを核に、過ごす人がおのずと〈ウェルビーイングになるまち〉

- 美園は「埼スタ」を始めとした公園・広場や、広幅員道路・綾瀬川遊歩道などのハードインフラと、浦和レッズなどのスポーツのソフトインフラに恵まれている。さらに、医療・福祉・文教拠点の土地利用が今後進む見込みとなっている。
- 健康長寿が期待される人生100年時代の到来をチャンスと捉え、先端技術・知見を積極的に導入しながら、美園に現に存するハード・ソフトのインフラ資源を最大限有効活用し、スポーツ・健康づくりに関わる地域コミュニティの輪を育んでいく。地域内外を問わず多彩なプレイヤー一人ひとりが自分らしく美園に関わりを持ちながら日々を過ごすことで、おのずと〈ウェルビーイング〉になるようなまちを目指す。



* ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良好な状態。世界保健機関(WHO)憲章前文において、

- *Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.*

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます(日本WHO協会訳)

と、その語意について定義されている。

将来像② 伝承と先端技術が織り成す〈美園版アーバンビレッジ〉

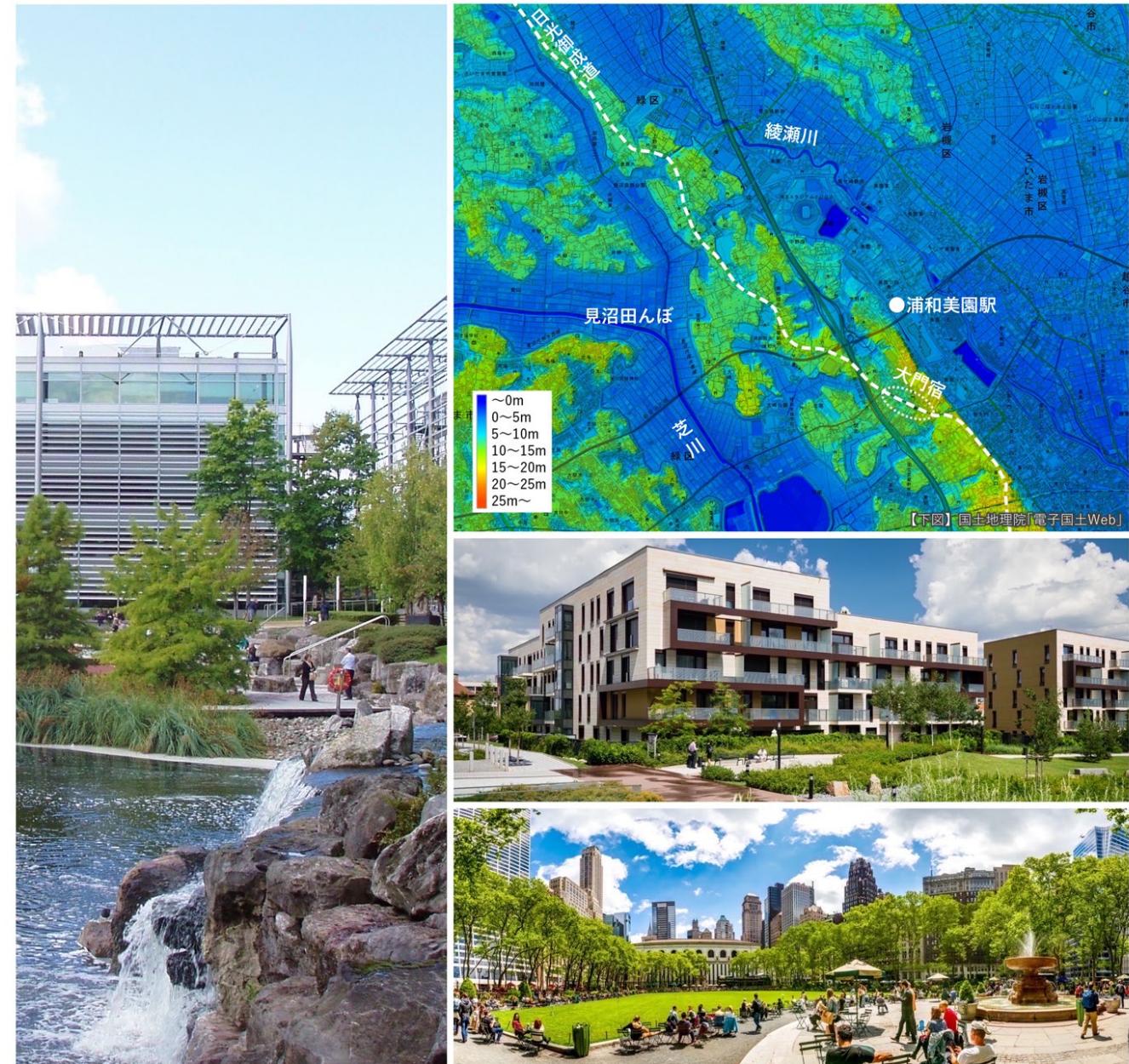
- 美園は、都心近郊で田園に市街地が食い込み・接する、フロンティアに立地している。こうした立地を活かし、採れたて野菜を日々の食卓に採り入れる、空を眺める、土をいじるなど、都心とは異なるスローな暮らしが実現できるポテンシャルを有している。
- 美園の「農」は、大消費地や自然を求める都心居住者を間近に抱え、「植木・苗木」など固有の産業も含め、高付加価値の多面的な展開が期待される。
- こうした美園の地理的特性を生かした新たな事業・活動等が萌芽し始めるとともに、先端技術・知見を生かしたまちづくりも試みられている。
- これらのポテンシャルが引き出され融合し、豊かな自然と都市の利便性を感じながら暮らせるとともに、訴求力のある新たな価値や持続可能なコミュニティが育まれるような、美園特有の風土・文化が醸成されるまち、〈美園版アーバンビレッジ〉*を目指す。



*美園版アーバンビレッジ：「農」や「植木」などの長年の歩みと、美園発の産業や先端技術とが融合し、訴求力のある新たな価値や持続可能なコミュニティが育まれるような、市街地と田園のフロンティアである美園特有の風土・文化を醸成していく事を総称する造語。

将来像③ 究極のグリーンインフラ 〈自然に溶け込むまち〉

- 美園は、広大な大宮台地と中川低地の接する端部にて、綾瀬川と芝川に挟まれた南北に伸びる支台(安行台地)をたどる日光御成道沿いの集落と、両河川沿川の田園で形作られてきた。この地形構造を記憶に留めながら、川に沿った「風のみち」や見沼の貴重な環境資産を未来へ継承していく。
- 河川調節池や広域災害時の拠点となる「埼スタ」、広幅員幹線道路などのハードを生かしながら、地域コミュニティの活力を高め、**ハード・ソフト両面で有事に頼れるまちの環境を育む**。
- さらに美園は、先端的な環境・エネルギー技術をまちに実装してきた実績があり、今後も、**ゼロカーボン***の大きな目標に向けて貢献していく、環境・エネルギー分野のフロントランナーとなる。
- これらを通じ、自然に逆らわず自然を生かした**究極のグリーンインフラ*** 〈自然に溶け込むまち〉となることを目指す。



*ゼロカーボン：CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成し、二酸化炭素排出量を実質ゼロとすること。

*グリーンインフラ：米国で発案された社会資本整備手法で、自然環境が有する多様な機能をインフラ整備に活用するという考え方を基本とする(国土交通省環境政策課『グリーンインフラストラクチャー：人と自然環境のより良い関係を目指して』より)